

新たな県立高等学校再編計画 後期計画（最終案）の概要

新たな県立高等学校再編計画（平成28年3月策定）

県教育委員会では、適切な教育環境の整備を図るため、平成28年3月に10年間の高校再編計画を策定し、前期計画の着実な推進とともに、後期計画の策定に取り組んできました。

10年間の高校再編計画



〔高校再編の方針〕

県立高校の現状と課題を踏まえ、**教育の機会の保障と教育の質の保証**を柱としつつ、地域における学校の役割を重視した『魅力ある学校づくり』に向けて進めるものです。

※ 後期計画策定に向けた主な取組

- ・ 生徒の多様な受入れのあり方に関する検討会議(H29~H30)
- ・ 中学生の進路希望等に関するアンケート(H30)
- ・ 地域との意見交換会(H30~R2)
- ・ 後期計画(案)の公表(令和2年2月6日)
- ・ パブリック・コメントの実施(R2)

1 県立高等学校の現状と課題

(1) 少子化による生徒数の減少

今後、県内全域の学校規模がさらに縮小することから、各学校における教育の質を確保する必要があります。

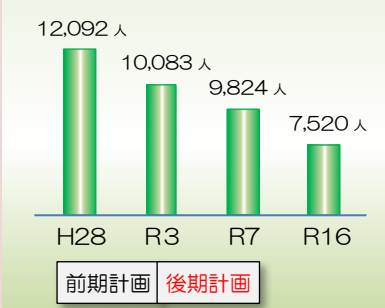
(2) 盛岡ブロックへの志願者の集中

比較的規模の大きい公立・私立の学校が設置されている盛岡市内に志願者が集まり、特に盛岡市内の県立高校の志願倍率が高い。

(3) 地域社会を担う人材の育成

地域社会に貢献する意識を醸成する教育を推進し、将来、地域で活躍し、地域を支える人材を育成することが重要となる。

本県の中学校卒業生数の推移



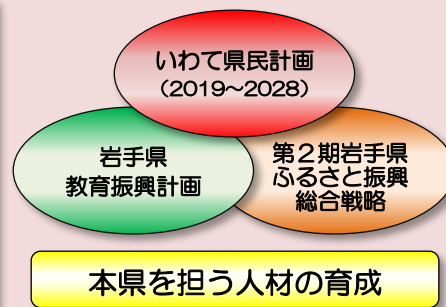
2 本県の施策に基づく後期計画

(1) 高等学校教育の状況

岩手の未来を拓く子どもたち一人ひとりの人格の完成と夢の実現を支え、新たな社会を創造する担い手として育てていくために、**いわて県民計画**や**岩手県教育振興計画**に基づき、県内すべての県立高校が活力を有した魅力ある学校づくりを推進。

(2) 地域や産業界と高等学校教育のかかわり

第2期岩手県ふるさと振興総合戦略に基づき、岩手の将来を担う子どもたちを育て、地域や地域産業を担う人づくりを推進。



3 後期計画の基本的な考え方

(1) 生徒の希望する進路の実現

生徒の進路実現に向けた、学力及び専門技術の定着・向上等

- ① 各ブロック内の学校規模をできる限り維持し、学びの選択肢を確保
- ② 進学や専門分野の深い学びを希望する生徒のため、一定の学校規模も維持

(2) 地域や地域産業を担う人づくり

地域人材の育成等について高校の持つ役割の重要性や地域からの期待等

- ① 各地域の学校をできる限り維持
- ② 多様な分野の学びも確保し、産業振興の動向等を踏まえ、学ぶことができる教育環境の整備

4 後期計画の具体的な取組

(1) 各地域における学びの選択肢の確保（原則として現在の学科、学級数を維持）

- ・ 地方創生の推進に大きな役割を果たしている学校においては、所在する自治体と連携した教育活動の充実が進められていることから、一定の入学者のいる1学級校を維持。
- ・ 県政課題への対応、産業人材の育成を担う役割がある1学年7学級等の学校は、学校規模を確保。

(2) 盛岡ブロックにおける特色ある教育を実践する大規模校の設置（盛岡南高校と不来方高校の統合）

- ・ 県内各地域から生徒が集まる盛岡市内の高校への生徒の集中を緩和。
- ・ 体育、芸術、外国語等の特色ある教育を実践する学校規模の大きさを生かした発展的な統合により、さらに先導的な実践に取り組むことができる教育環境を整備。

(3) 地域の産業教育の拠点となる専門高校等の整備

ア 盛岡ブロックにおける工業高校の整備（盛岡工業高校の移転を検討）

急速に変化する社会環境に対応できるよう新たな学びを取り入れること等も検討しながら、施設等の老朽化を踏まえ、産業人材に関する幅広いニーズや最先端の工業の学びに対応できる教育環境を整備。

イ 県南地域における大規模な工業高校の設置（水沢工業高校と一関工業高校の統合）

時代に対応した新しい学びの創設も検討しながら、産業人材のニーズに幅広く対応できる工業教育の充実に向けて教育環境を整備。

ウ 宮古ブロックにおける専門高校の整備（宮古商工高校と宮古水産高校の一体的な整備）

老朽化が進む両校の校舎等を同一校地内に集約し、各専門分野に関する特色ある学科の機能を連携させて幅広く学びつつ、地域産業との連携による専門教育の充実等も図ることができる教育環境を整備。

エ 二戸ブロックにおける専門教育を担う学校の設置（福岡工業高校と一戸高校の統合）

ブロック内の各専門分野に関する特色ある学科等の機能を維持しつつ、地域の将来を見据えた専門教育の拠点となる学校として教育環境を整備。

5 高校再編に関する基準等

(1) 周辺の高校への通学が極端に困難な学校の取扱い

- ・ 近隣に他の高校がなく、通学が極端に困難な地域に所在する学校を特例校として維持。（葛巻、西和賀、岩泉）
- ・ 1学級校については、直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合について協議。

(2) 岩手県立高等学校の管理運営に関する規則の適用

- ・ 入学で1学級定員（40人）を上回る欠員が生じた場合には、学級減を検討。

再編計画における県立高校（全日制）の編制

年度	中学校卒業生数	学校数	募集定員	学級数	学科種別学級数
平成28年度	12,092	63	10,200	255	普通科 148
					専門学科 77
					総合学科 30
令和3年度	10,083	62	8,960	224	普通科 129
					専門学科 69
					総合学科 26
令和7年度	9,824	59	8,680	217	普通科 124
					専門学科 67
					総合学科 26

後期再編プログラム総括表

設置タイプ等	年度	前期計画 統合延期校	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
専門高校 (令和7年度以降)							水沢工業 一関工業
専門学科・総合 学科併置高校		久慈東 ※ 久慈工業				福岡工業 一戸	
普通高校							盛岡南 不来方
学級減					盛岡南 不来方		
学校数(全日制)			62	62	62	61	59
学級数(全日制)			224	224	222	221	217

※ 令和3年度入試の状況等により統合時期等を判断することとしており、その状況により、表の数値が変更となる場合があります。

後期計画期間後の再編の方向性

- ・ 学校規模を確保した上で教育の質を維持できるよう、さらなる統合の検討を進めていくことが必要となります。
- ・ 専門学科及び総合学科については、多様な専門分野を維持した上で教育内容の充実を図るためには、ブロックを越えて専門分野を集約する大規模な統合の検討を進めていくことも必要となります。